

2022年保険改定対応版
刊行にあたって

2016年に日本老年歯科医学会が発表した口腔機能低下症に関する学会見解論文を基盤に2018年4月に口腔機能低下症の検査・管理が保険導入されました。本書はなじみのない口腔機能低下症の解説のため、学会監修の書籍として、保険導入の立役者であり、元理事長であった櫻井 薫先生と学術委員長であり学会見解論文の責任者であった私が編著を担当させていただきました。2年後の2020年の保険改定に合わせて、前理事長であった佐藤裕二先生と櫻井先生、私で第2版を編集させていただきました。そしてこのたび2022年の保険改訂にあわせて、第3版を出版させていただきました。編著は現在理事長を拝命しております水口が担当させていただいていますが、元・前理事長と、何といたっても見解論文の作成以来、苦楽を共にしてきた学術委員会のメンバーのご尽力によってなされていることを改めて申し上げたいと思います。

さて、保険取載から4年が経過した口腔機能低下症ですが、多くのエビデンスが集まってきました。国際的にも認知されはじめ、この3月に老年歯科医学の英文誌である Gerodontology では Oral Hypofunction (口腔機能低下症) and Oral Frailty (オーラルフレイル) の Special Issue が発行されました。このように口腔機能低下症やオーラルフレイルが広がっていくと同時に問題点も明らかになっています。日本老年歯科医学会では昨年12月に「口腔機能低下症とオーラルフレイルに関するワークショップ」を開催いたしました。そこでは口腔機能低下症に関連の深い会員に加えて、日本歯科医師会から佐藤 保先生、オーラルフレイルの提唱者である飯島勝矢教授、厚生労働省の小嶺祐子先生にもご参加いただき、問題点を洗い出し、その対策を検討いたしました。さまざまな議論の事項がございましたが、まずは「口腔機能低下症」の病名をもっと周知していただくことが大事で、周知しやすいようにすることが大事であることが強調されました。学会として、さらに口腔機能低下症をブラッシュアップし、歯科医療関係者がもっと国民の健康長寿に貢献できるように努める決意であることを表明し、刊行あたってのご挨拶とさせていただきます。

2022年5月
東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 高齢者歯科学分野
水口俊介